

延宝七年銘石造狛犬



〔指定年月日〕昭和五九年三月三一日
〔種別〕有形文化財（彫刻）
〔名称〕延宝七年銘石造狛犬
〔点数〕一對
〔所有者等〕荻窪八幡神社
〔所在地等〕上荻四―一九―二

延宝七年銘石造狛犬

高さ二六cm、幅二六・五cmの対向型阿吽形式の狛犬で、社殿内に安置されている。石質は安山岩である。

面貌は楕円形で口が大きく、ユーモラスな犬に近い。彫りは阿形（向って左）の方が精巧で、吽形（右）の方は胸部のふくらみが大きい。脚部体下はともにほりぬかれていない。

銘文は背部から脚部にかけて「延宝七未年九月 日 八幡宮 荻久保村」と陰刻されており、延宝七年（一六七九）の造立であることがわかる。

荻窪八幡神社は寛永年間（一六二四～一六四四）頃から氏子による社殿修復などが盛んになってきており、この狛犬もこれと関連して社殿守護の目的で寄進されたものと考えられる。

都内の石造狛犬では浅草寺（台東区）の恵比須大黒堂の延宝三年（一六七五）のものが最も古いといわれている。本狛犬はこれに次ぐ古いもので、素朴な造形の中にも入念な彫造がほどこされており、江戸初期の作風がよく現れている。

【文化財所在地】

